



## 新たな旅立ち～次は海の上で～



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之 1等陸佐）は、8月26日（金）、海上自衛隊横須賀教育隊（神奈川県横須賀市）で行われた、一般曹候補生の修業式に参加した。

当日は、約5ヶ月間の厳しい教育訓練を終えた新隊員332名の成長した姿を見るべく早朝から多くの隊員家族や来賓が会場に集った。久しぶりに再会した新隊員たちは入隊前に比べ精悍な顔つきに変化しており、体つきは逞しく、態度は堂々とした立派な海の自衛官に成長していることを感じさせた。

式の中で横須賀地方総監（堂下哲郎海将）の訓示があり、「君達を取り巻く環境は日に日に厳しくなり、大きな壁にぶつかることがあると思う。その時は仲間達と過ごしたこの教育隊での生活を思い出し、乗り越え、立派な海上武人となって欲しい」と力強いエールを贈った。その後、学生全員で海上自衛隊歌「海をゆく」を大きな声で合唱し、新たな門出を盛り上げていた。

修業式終了後、家族との会食会が開かれ、家族からは「5ヶ月間の教育を無事に終わることができて安心した。これからは、一人前の海上自衛官となるよう部隊で頑張ってもらいたい」との感想が聞かれた。

静岡地本から入隊した隊員11名は、全国各地の艦艇等への配属が決まり、それぞれが希望を胸に、新たな場所へ旅立つことになった。

静岡地本は、これからも郷土出身隊員の彼らが一人前の海上自衛官として成長し、全国各地で活躍することを祈念しつつ、引き続き連絡を取り合いながら温かく見守っていく。

## 幹部自衛官の職場を見学



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之 1等陸佐）は、8月29日（月）、防衛省市ヶ谷駐屯地で行われた「平成28年度第1回大学生に対する防衛省インターンシップ」に大学生を引率した。

この日の参加者は71名で、静岡県からは3名の大学生が参加した。内容は、幹部自衛官との懇談会や駐屯地内にある市ヶ谷記念館の見学を実施した。

懇談会では、市ヶ谷に勤務する陸海空幹部自衛官24名が集まり、自らの経験談や幹部としての魅力等を語ったほか、質疑応答の時間が設けられた。学生達は初めは緊張した面持ちであったが、「幹部自衛官を受験した動機」や「苦労したこと」「職種に関すること」等について熱心に質問をしていた。

その後の記念館見学では、極東国際軍事裁判（東京裁判）の法廷として使用された大講堂等を見学した。大講堂は一点遠近法を用いて建設されており、中央にある天皇が座る玉座が実際より遠く見えるよう作られているなど、当時の日本の建築技術の高さを感じるとともに、大講堂の歴史的背景を学び国防への理解と関心を深めていた。

参加した学生は、「幹部自衛官の生の声を聞くことができ、とても参考になった」「普段入ることの出来ない場所で貴重な経験ができた」と感想を語った。

静岡地本は、今後も様々な機会を利用し、大学生等に自衛隊のやりがいや魅力を伝え、国防の中枢を担う幹部自衛官を志してもらえよう、募集活動に努めていく。

## 沼津東高等学校で学校説明会



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之 1等陸佐）は、9月2日（金）、県立沼津東高等学校（沼津市）において学校説明会を行った。

説明会は、防衛大学校、防衛医科大学校医学科及び看護学科を希望する生徒を対象に行われ、沼津東高等学校の卒業生である小山田万恵3等陸佐が説明を行った。現在、陸上幕僚監部装備計画部で勤務する小山田3佐は、高校在学中の思い出から防衛大学校入校、自衛隊での勤務等の様々な自分の歩んできた経験から、自衛隊の魅力ややりがいについて語った。

また、自衛隊富士病院で勤務する防衛医科大学校医学科出身の富士病院診療科医官・福永継美2等陸尉及び看護学科出身の中野あゆみ3等陸尉が各学科の受験に対する心構えやアドバイスの他、学生生活及び卒業後の勤務について説明を行った。

今回のような学校説明会に参加してから、受験を決定した生徒も多いことから、支援隊員は「これから向かえる各種受験の中で防大等も選択肢の一つに加えてもらいたい。また、同じ進路の方向性を持つ友達にも紹介して是非一緒に受験してもらいたい」と語った。

静岡地本は、今後も県内各地の各学校との連携を強化し、OB・OGによる説明会を開くなど、受験希望者の確保に努めていく。